

家を直す努力など限界に

深刻さ増す 残された高濃度地区の問題



元気に育つ植物を指差し「ガスの心配はない」と話す菊地さん

三宅島のガス高濃度地区の指定は、解除されたり、短期の一時滞在が許可されたりしている。しかし、まだすべての人が自分の家に帰ることができる具体的な時期は、決定しておらず、家を直す努力などが限界に達しているのが現状だ。

阿古にあった高濃度地区は、4月1日に指定が解除された。それでも15軒ほどの家屋がある地域では、ガス高感受性者のほか未成年者の立ち入りも制限されている。そのため、子どものいる家庭では、親だけしか帰れず、

また、帰宅を希望する人の、家を修理する努力も限界に達している。そのため、現在、坪田高濃度地区で居住が可能な家は15戸程度しかないという。沖ヶ平地区の家を、これまでに300万円以上をかけて修理を続けてきた菊地忠男さん(74)は、「季節風などの影響で、ガスが長時間留まることはほとんどありません。村の対応は遅すぎて話にならない」と厳しい口調で話した。

坪田の高濃度地区内の三池は、ガスのほか、斜面の崩落、土地が低いために津波や高潮などの被害を受ける可能性がある。そのため、三宅村では、該地域の土地をすべて買収し、土を入れかさ上げをして造成したのち、希望する人には買収したと同額で優先的に分譲するという計画を



「かさ上げ」が計画されている三池地区

立てている。この計画は、すでに地域に居住可能な家がない人への受け入れやすいものだ。しかし、まだ予算処置がとられていないとともに、高額な費用をかけて家を直し続けることが、家を直すことに必要としない。そのため、全地権者の同意を得るには長い時間がかかる可能性がある。さらに計画決定後は、工事終了までこの地域への立ち入りができなくなるため、結局家を直すことが、帰れなくなることを心配する声も聞かれる。

三池地区のかさ上げ 予算処置や全員の同意が課題

事務局便り

○第16回世話人会開催

9月14日(月)18時半

場所：喫茶ルノアール

会議室(巣鴨駅前店)

内容は、訪問活動の報告、神楽坂フェスタの打ち合わせなどです。皆様のご参加をお待ちしております。

○ご寄付のお願い

引き続き、ご厚意をお寄せいただきたく、お願いいたします。

郵便振替口座

口座番号：00120-3-545036

口座名称：三宅島ふるさと

再生ネットワーク

事務局：あすなろ保育園内

郵便番号：173-0005

住所：板橋区仲宿25-6

電話・FAX 03(3963)5697

担当 横山

新たに島を離れる人も

人工透析機の設置早急に



人工透析機が設置されていない中央診療所

現在、島には腎臓の機能が衰えた人に必要な人工透析機がない。そのため、帰島をしたくても未だにできない人がいるほか、腎臓が悪くなったために新たに島を離れなければならない人も出ている。

人工透析機とは、重度の腎臓機能障害などの患者に対し、老廃物を体外に出すために血液の循環濾過を行う装置のことで、患者は通常週に2回から3回の透析を受ける必要がある。しかし、三宅村にないために、透析を受ける必要がある人は島に住めないばかりではなく、長期滞在することもない。また、腎臓の機能が低下した高齢者が、島を離れなければならないという状況も起きている。

伊豆諸島の中で大島や

浅沼徳広村会議員

「村長は業務命令を」



人工透析機の設置を促進する立場の浅沼徳広村会議員は、「村

が機械の設置をしない理由を理解することができない」と話す。機械の設置は予算上の問題から一般会計を圧迫するというのが村長からの説明だそうだが、今後利用者が増える状況を考えたり、都の補助を利用したりする方法を

浅沼さんは、「透析が必要で島を離れる高齢者は、死んで帰るしかないのが現状。村長は早急に業務命令を出してほしい」と話した。

八丈島、新島、神津島にはすでにある。三宅島にも設置を望む声は多く、島民有志による請願署名では、1238筆が集められた。これに対し村では、村長や村議会議員、中央診療所医師などがメンバーとして人工透析装置の設置問題を検討する「三宅村国民健康保険運営協議会」を設置した。しかし、2011年度までの村の政策を決めた「第四次三宅村総合計画後期5カ年実施計画」では人工透析機の設置の計画はなく、予算も組まれていない。そのため、いつ設置できるかは、現状では不透明な状況だ。

未帰島者から嘆きの声

「もう期待はできない」

私は、全島避難中に腎臓の病気で人工透析が必要になりました。家が島にあり、帰りたいという気持ちですが、強いですが、機械がないので、島で暮らすことはできません。また、私が島に帰るときは出発日に人工透析を受けてから船に乗り、戻ったあとも港から病院

に直行して透析を受けています。それでも滞在できるのは2泊が限界。船が欠航になるとヘリコプターで運んでもらわなければいけなくなるので、海が荒れる冬は行かないようにしています。人工透析機は、これまで何回も入れるという話を聞きましたが、そのたびに裏切られているので、もう期待はしません。生活に支障があるので住民票を移し、家も購入しました。でも望郷の思いは強く、機械が入れば、やはり島に戻ろうと思っています。

それでも強い望郷の思い

観光産業の復興が鍵

「Geo Tourism」を提唱



旧阿古小学校と遊歩道

島に若い世代が戻って来ない理由の一つに、主要産業の観光が復旧していないことがある。噴火前年の1999年に約79,000人いた観光客は、08年には約41,000人になっている。

その原因には、島へのアクセスの悪さなど様々な要因が考えられるが、ガスの影響も大きい。例えば旅行会社は、規定によりガスの噴出している地域のパック旅行を組むことができない。

しかし、三宅村観光振興課では、このような火山の影響を逆手に取って火山を観光資源として利用する「Geo Tourism」を提唱している。すでに83年の噴火で溶岩に埋まった旧阿古小学校付近に遊歩道を造るなどの取り組みをしているほか、ガスで木の枯れた雄山への植樹ツアーにも力を入れたいという。

「孤独死」が発生

高齢化の進行が背景に

「孤独死」が起きたのは、伊豆、阿古、坪田の3地区。この中で伊豆地区のケースは、死亡から発見までに2週間

以上の時間がかかったという。島の人に話を聞くと、2000年の噴火以前は、「孤独死」が起きたという記憶はないとい



高齢者宅で活動する向上高校の生徒

三宅島では、ふるさとネットが確認しているだけでも、4月以降すでに3件、高齢者の「孤独死」が起きている。「孤独死」の発生は全島避難解除から4年以上がたつ中で、島における高齢化の進行が深刻な状況になっていることを示すものであり、適切な対応が望まれる問題だ。

う人がほとんどだった。今年になって「孤独死」が連続して起きた背景には、高齢化の問題がある。2000年噴火以前、島の高齢者は、家族と暮らしたり周囲に親戚がいたりするケースが多かった。しかし、全島避難指示以降は、若い世代が帰島しなかったことから、高齢者のみの家庭が増えた。一人暮らしの高齢者の数は、三宅村役場では掌握していないそうだが、噴火前に比べてその数は大きく増えているのは間違いない。さら

に、帰島から5年以上がたち高齢化が進んだことで、高齢者を支えてきた近所づきあいなどの助け合いもできにくくなっている。

高校生も感じた不安

向上高校の新聞委員とその卒業生でつくるDTPAのメンバーは、8月4日から6日まで島を訪れ、一人暮らしや夫婦二人暮らしの高齢者宅10軒で家の掃除などの活動を行った。その中で、高齢者だけ

では、家の細かい部分の修理や草刈り、清掃などに関して、手の届かない部分が多いことを感じた。また訪問先の高齢者からは、「年をとるに従って、体が動かなくなってしまうたときのことが不安になる」となどの話も聞かれた。さらに、昨年島を訪ねた際に訪問した一人暮らしの高齢者が、家の近くで転んで腰を打ち、島を離れて都内の病院に入院しているという心配な状況も聞かれた。

祭は盛大に

11年ぶりに富賀神社大祭

高濃度地区指定解除や坪田の一時滞在等が行われる中、11年ぶりの富賀神社大祭が8月4日



島内をねり歩く富賀神社の御輿

から9日まで、400人前後の帰郷者、観光客を交えて実施された。名物の「けんか神輿」は小競り合い程度で警察が制止。地区神輿役員の要請があるまで静観する配慮を、との声も聞かれた。また、7月18日、19日には牛頭天王祭、7月31日には8月1日にはマリンスコーレ21(主催者発表2千500人来場)も実施された。

お便り紹介

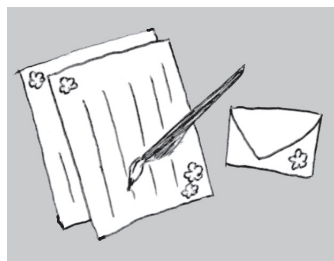
先日は遠方より DTPA のメンバーの方が訪ねて下さり有難うございます。島のことをずっと気にかけていただき本当に頭が下がる思いです。「お米券」を届けていただき有難ういただきました。会長と共にお世話が続けて頂いているみな様に心よりお礼を申し上げます。皆が元気で島に帰れる日が一日も早く来る事が希望です。天候不順の折りお体には気を付けて下さいます様に。

(A様)

ご寄付者名

遠山定雄様、小林紀江様、吉野文雄様、小曾寿美子様、佐藤宗ノ子様（6月10日～8月15日）

ありがとうございました。



編集後記

今号は、8月に三宅島を訪ねた際に取材をして、同行した向上高校の生徒にも記事を書いてもらう中で編集作業をしました。

DTPAのメンバーが3回目を訪ねるが、高齢化の進行は深刻な影響があると感じました。今後、新報の編集や在京者の訪問活動など、幅広い協力を続けていきたいと考えています。(DTPA一同)

在京者訪問

報告会で方針確認 地域拡大なども検討



7月12日に行われた報告会議

今年度、ふるさとネットでは、新しい体制で在京者訪問活動を行っている。7月12日には訪問員による報告会議を実施し、訪問方法の改善や訪問地域の拡大などについて話し合い、さらに充実した活動を目指すことを確認した。

7月12日、在京島民訪問活動報告会議が巣鴨で開かれ訪問員7名が出席した。4月から新しいチーム体制で行っている在京島民の訪問活動。現在までの状況をチームごとに報告し、各世帯の要望や問題点などについて

協議した。

ネット事務局は北区と板橋区の計9軒を訪問。ほとんどが70～80歳代の高齢者であり、その中には健康上の問題が気になり、人と関わりたくないという方もいる。事務局はそのような方を定期的に訪問していくとともに、品川区や豊島区にも担当の範囲を広げること

を計画している。

酒井一豊副会長は練馬区、東村山市、武蔵村山市の計8軒を訪問。今後とも継続的にこの地域を担当する。また、八王子市、府中市、稲城市を担当し、3軒を訪問したDTPAと向上高校のチームは、今後、町田市や神奈川県にも担当の範囲を広げていく予定だ。

医大生5人に奨学金

医師配置の対策として

8月20日、三宅村村民生活課の呼びかけで、神着老人福祉館において「いつまでも自分で歩くために」がテーマの健康教室が行われた。参加したのは、自治医

科大学生、順天堂大学生と田城孝雄准教授（内閣府専門委員）、三宅診療所医師等と各地区老人クラブの会員40人。なお東京都は、医師配置の離島、過疎対策として、順天堂大学生5人に奨学金を出し、提携することを決めた。

MYAKE 復興イベント

◎三宅島エコライド（サイクリングイベント）

日時 10月2～4日

潮風にのり三宅島を一周する島の身の丈に合うイベントです。問い合わせ

03(3597)6557

◎モーターサイクルフェスティバル（本島イベント）

日時 10月24～25日

前段のお台場イベントは天候も悪く、昨年の1万7千人の参加に對して約1万2千人。8月21日からの親子サマーカーンプなど関連イベントも含め、観光客の減少傾向に歯止めがかかるか正念場だ。